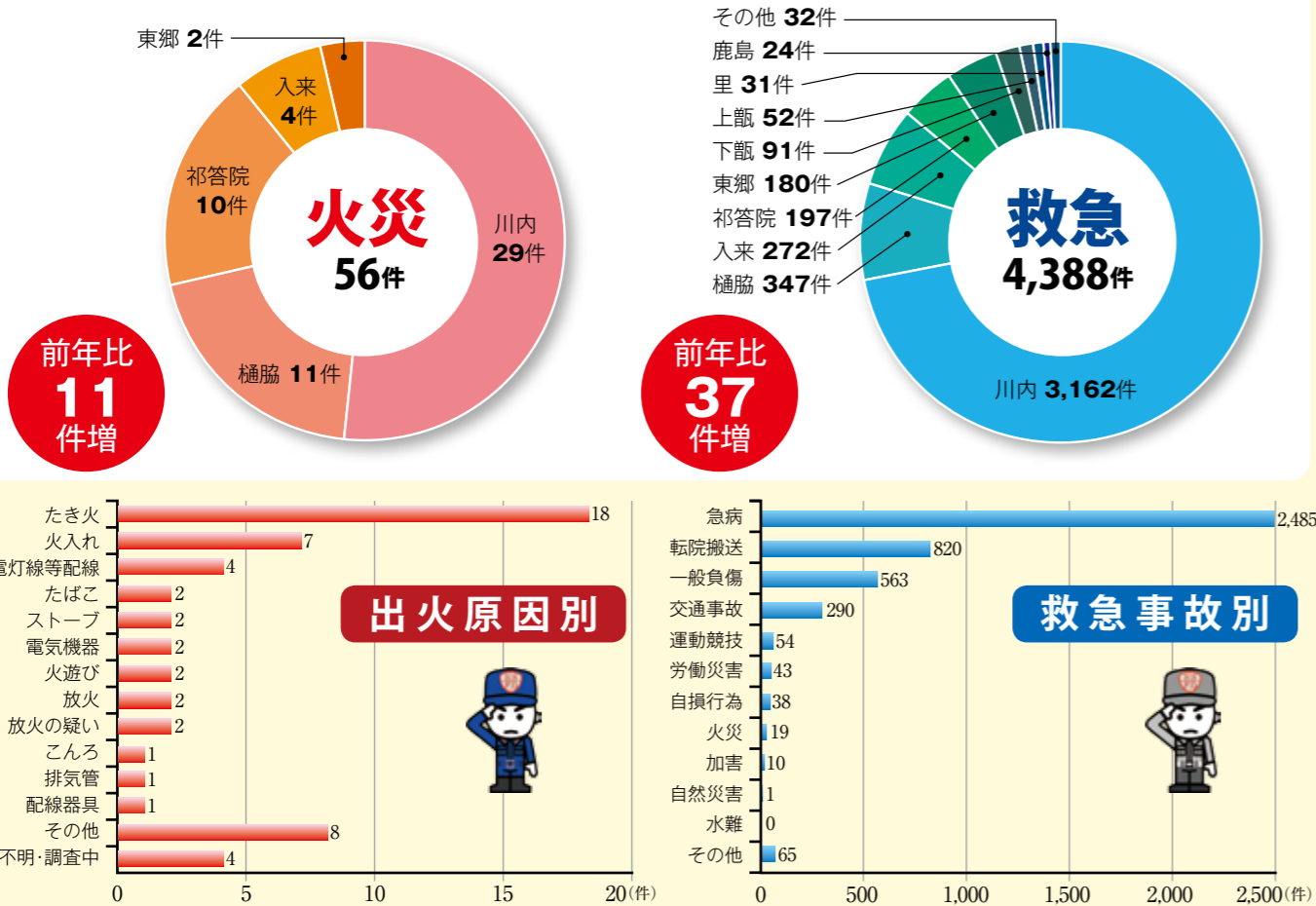


地域別で見る平成29年 火災・救急の状況



火災は56件で、昨年より11件増加しており、おおよそ7日に1件の割合で火災が発生した計算になります。人口1万人当たりの出火件数(出火率)は5.80と昨年の全国の2.88、鹿児島県の3.60と比較して高い水準となっています。特にたき火や火入れを原因とする火災は25件で全体の約半数を占め、そのほとんどが枯れ草焼却中の不注意によるものです。一方、救急件数は昨年より37件増の4,388件で、過去最多となりました。これは、おおよそ1日に12件、2時間に1件の割合で発生していることとなります。なお搬送人員は3,911人で、昨年より17人減となりました。大切な命を救うため、今後も救急車の適正利用をお願いします。

「Q助」(全国版救急受診アプリ)を活用しましょう！

急な病気やけがをしたとき、該当する症状を画面上で選択していくと、緊急度に応じた必要な対応(「いますぐ救急車を呼びましょう」、「できるだけ早めに医療機関を受診しましょう」、「緊急ではありませんが医療機関を受診しましょう」)または「引き続き、注意して様子を見て下さい」が表示されます。その後、119番通報、医療機関の検索(厚生労働省の「医療情報ネット」)にリンクや、受診手段の検索(一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会の「全国タクシーガイド」)にリンク)を行うことができます。



総務省消防庁「Q助」案内サイト

スマートフォン版：消防庁HP内「Q助」サイト、またはアプリストア(APP Store、Google Play)からアプリをダウンロードしてください。

Web版：消防庁HP内「Q助」サイトからWeb版に入ってください。

https://www.fdma.go.jp/neuter/topics/filedList9_6/kyukyu_app.html

万が一の火災に備えて 避難経路を確保しましょう！

【編集】= 薩摩川内市消防局予防課 <http://www.satsumasendai-fd.jp> 薩摩川内市消防局 検索

本市では、昨年、火災による死者が6人で、過去最多となりました。このうち3人は建物火災によるものです。火災を起こさないための「予防」が一番大切ですが、火災が起きた際の迅速な対応も、命を守るためにとても大切なことです。一瞬の判断ミスで、大切な命や財産を奪われないために、普段の生活の中から万が一に備えて「避難経路を確保」しておきましょう。

また、昨年の全国統計で、火災出火原因第1位は「放火」です。放火を完全に防ぐことは困難ですが、放火されにくい環境を作ることができます。そのために家の周りには燃えやすいものを置かないなどの防火対策を実施しましょう。

住宅火災で逃げ遅れないために！

- 火災が発生したときの避難方法を日頃から家族で話し合っておく。
- 窓からの脱出方法を考えておく。
- 初期消火の限界を知っておく。
- 避難弱者の居住は、1階または避難しやすい場所にする。



火災の煙の中では視界も悪く、刺激性の微粒子が目や鼻を刺激するため、避難時の障害となります。そうした状況の中で避難する際、階段、廊下、通路、出入口などに物が置かれていると、避難が困難になり、逃げ遅れの原因になります。日頃から避難経路の整理整頓を心掛けましょう。



ワンポイント!!

煙の速さ
 水平方向に広がるスピード 秒速0.5～1m
 垂直方向に広がるスピード 秒速3～5m
 人が歩く速さは秒速1～1.3m

垂直方向がはるかに速い!

消火器を使うときは

消火器を使用する際は、消火器の粉末や煙で視界が遮られ、逃げ道が分からなくなります。しっかりと逃げ道を確保してから消火器を使用してください。

すでに天井に炎が走っている場合は、消火器による消火は困難ですので、いち早く避難しましょう。



放火防止に取り組みましょう!

- 家の周りに燃えやすい物を置かないようにする。
- ごみは、収集日時などルールを守って出す。
- 家の周りをできるだけ明るくする。
- 物置、空き室、車庫などには必ず鍵をかける。
- 自動車などのボディーカバーは、できるだけ燃えにくい防災製品を使う。

